オウレン

生薬の性状の項を次のように改める.

生薬の性状　本品は不整の円柱形で長さ 2～4cm，まれに 10cm に達し，径 0.2～0.7cm で多少湾曲し，しばしば分枝する．外面は灰黄褐色を呈し，輪節があり，多数の根の基部を認める．おおむね一端に葉柄の残基がある．折面はやや繊維性で，コルク層は淡灰褐色，皮部及び髄は黄褐色～赤黄褐色，木部は黄色～赤黄色である．

本品は弱いにおいがあり，味は極めて苦く，残留性で，唾液を黄色に染める．

本品の横切片を鏡検〈*5.01*〉するとき，コルク層は細胞壁の薄いコルク細胞からなり，皮部柔組織中にはコルク層に近い部位に石細胞群，形成層に近い部位に黄色の師部繊維を認めるものが多い．木部は主として道管，仮道管，木部繊維からなり，放射組織は明らかで，髄は大きく，髄中には石細胞又は厚壁で木化した細胞を伴う石細胞を認めることがある．柔細胞には細かいでんぷん粒を含む．